

◆特集 患者への図書サービス～地域の動き～◆

患者用図書館の設置を求めて —市民団体としての活動と考える—

長谷川 正 吾

I. 「静岡市の図書館をよくする会」の市民活動としての基本的な考え

まず先に、「静岡市の図書館をよくする会」(以下「よくする会」)について簡単に紹介します。「よくする会」の発足は1988年で、早くも17年近い活動の歴史を重ねていることになります。

その間、活動の内容こそ時により変遷しつつも、一貫して変わらない基本的な活動の理念と認識があります。それは次の3点に集約されます。

第1に、図書館づくりを目指す市民運動は、どんな時にも「図書館の味方だ」と表明すること。「図書館が困っている時には進んで協力すること」。第2に、正確な事実やデータに基礎を置き、あらゆる活動を開かれたものにする。そのために、図書館の情報公開を求め、自分達の活動も記録・公表を徹底すること。第3に、単なる「おねだり」「いちゃもんつけ」の集団にならないために、図書館をひとまず行政全体の中で相対化し、しかるのちに改めてその重要性を主張できるようにし、こちらからも提案できるようにすること、などです。

以上の3点の考えが生まれた背景には、図書館職員と図書館の積極的な利用を考える市民団体との問題意識や現状認識の違いを埋め

るためには、双方の意見交換の中から「学ぶ場としての図書館の質を上げていくのは、利用する市民のサポートの質による」という考えが生まれ、これを実践するために「よくする会」が誕生したという経緯があります。

これらの基本的な考えから、既設の公立図書館へのサポーターとして折々の交流を通して、共々望ましい図書館像にむかっての意見を述べるだけでなく、静岡市内の図書館ネットワーク整備充実のため、時には新分館建設を確実にするために各地域を拠点とする市民団体と連携したり、市の職員をも巻き込んでサポートしてきました。また県立中央図書館への要望や学校図書館への司書の配置や職場の安定性確保に関して、市教育委員会へ要望をするなど、行政側との意見交換や提言の機会を数多く作っています。

II. 市立病院に患者図書室設置要望にいたる経緯と要望書

前述のように、「よくする会」の活動は行政や図書館職員と対峙する立場でなく、行政と市民と職員が一緒になってより良い方向を探していくというスタンスが活動の基本となっている会です。

時あたかも2004年4月に静岡市・清水市の合併という新しい行政のテーマがスタートを切りました。合併にあたっての理念として、市民サービスの充実と向上が重要な柱として位置付けられ謳われています。また、新市スタートと期を同じくして、市の施設である静

HASEGAWA Shougo

静岡市の図書館をよくする会

hase-405@ktf.biglobe.ne.jp

岡市立病院の増改築が具体化されるという情報に触れました。病院利用者という立場になって考えた時に、患者サービスという面で、従来の病院から一歩進んだ、多角的に考えた病院であって欲しい。それには、医療情報と癒しの提供を求める患者側のニーズに応えるものであって欲しいとの発想を元に「患者や家族のための図書館」の設置を要望し、具体化させてゆきたいとの考えを持つに至りました。

図書館は情報提供の場です。病院と患者の関係も時代と共に大きく変わってきています。医師や看護師に全てを任せるというところから患者自らが治療方針の決定などを判断するということが求められる時代に入りました。そのためには医療・医学に関する情報が必要十分に提供されなければなりません。

この考えに沿って、私たちは2回にわたり「お願い書」を市長と病院長宛に提出しました。

その2回の要望の要点は以下のとおりです。

第1回 (2004年5月提出)

医師に任せきりの医療から患者も主体的に治療に関わり参加する時代に入り、患者自身にとっては自分の病気や治療方法の知識を得たい。知識を得るには患者への情報提供の場である図書室の設置が必要条件であると考え。それは入院患者の術後治療のためにも活かせるものであって欲しい。そのために是非とも改築の機会に図書室新設も盛り込んで欲しい。

第2回 (2004年11月提出)

建物改修設計に患者図書室設置が組み込まれていることを聞き高く評価したい。そこで、内容(ソフト)面として下記の5点を要望したい。

1. 経験豊かな専門スタッフ(司書及び医療従事者)を常勤させて欲しい。
2. 最新の医学情報や患者の必要とする図書が常に提供できるよう、十分な床面積、十分な予算を確保して欲しい。
3. 専門資料を求める患者のため、職員図書室と連携する体制を作って欲しい。
4. 図書室へ来室できない患者のための巡回サービス、患児のためのコーナーを作って欲しい。
5. 患者図書室設置にあたりプロジェクトチームを作って欲しい。メンバーには市民代表として、公共図書館司書・患者友の会代表・病院図書ボランティアの経験者を加えて欲しい。の5点です。

せっかく形としての患者図書館ができて、その運営が、魂の入らない手を抜いたものとなつては、投資と経費が生きてきません。患者図書室が医療知識の薄いボランティアで安直に運営されるとなると、図書室設置の真の目的から離れてしまいます。司書としての力を持ち、なおかつ、医療知識を持つ職員が常駐することは欠かせない重大な条件となります。しかし、現在得ている情報によりますと、患者図書室の設置は確実になりましたが、今後の運営においては、職員図書室の専任司書がフロアの違う患者図書室との兼務で管理する見込みということです。これでは患者にとって、知りたい情報との出会いは、なかなか容易ではないように思われます。形としての患者図書室だけの設置では、魂が入りませんし、兼務する職員の負担も過大にならないかと憂慮するところです。「よくする会」としては、今後も引き続き、病院図書室の望ましい姿についての要望やメッセージを訴えていきたいと考えています。

Ⅲ. 患者にとっての病院図書館の存在の意味

本年2月に「よくする会」の企画主催による「静岡県図書館づくり交流会」を実施しました。この分科会の一つとして病院図書館の実態を知り、図書館としての使命について考える機会をもちましたので、これについて触れ、患者の求める病院図書館について考えてみます。

この分科会（テーマ『よりよい医学情報を得るために』）においては、最初に病院図書館の実態を静岡赤十字病院の医学図書室司書の天野いづみさんに報告をしていただき、公立図書館とはまた違った専門図書館の抱える課題を聞き、考える機会を得ました。それらの課題を一つ一つ追求する先には、医療情報の専門知識を持つ司書がいるということの意味の大きさと、時代の求めに沿って変わってゆく病院の質的向上の方向に有効的に活用するシステムを作ってゆくことの大切さがありました。あらゆる課題に立ち塞がる予算という制約は別として、図書館という情報の宝庫が利用者の求めに応じて検索、利用されるためには、常に情報が最新化され、系統的に整理されていることが大切です。そのための、医療スタッフの一員としての司書の存在の重さが理解できる場所でした。

この分科会では、更にかん患者として「静岡がんセンター」の図書館を利用した二人の女性の方の体験報告をしていただきました。自身の病気のことを知り、早期に、また間違いのない方法で治療したいとの思いで、センターの患者用図書館を利用した体験談を語っていただきました。治療の困難な病気と向き合う一人の患者としてドクターにお任せするという弱い立場から、治療について主体的に関わって病気と闘おうというときに、患者は自分の病気に関する正確な情報を求めます。その時、公立図書館よりも専門性の高い病院

図書館（医学図書館）に、その質、量ともに満足できる情報が、いかに十分に整備蓄積され専門職としての司書が常駐していても、通常一般患者の立場ではその貴重な情報に触れ利用することは出来ません。一方、患者の必要とする情報は、ドクターなどの医療スタッフに提供されるべき情報や資料とは異なることは自明です。そこで、あくまでも質的に性格が異なる患者ニーズに応えた図書館が求められます。

患者図書館に整備されるべき図書は、多様で深刻な病気に関するドクターの説明が理解できるまでの知識と、複数の治療方針の選択肢を主体的にセレクトできるまでの知識であり、更に精神的な癒しにいたるまで幅の広いものがが必要です。そのための図書の選択と提供は患者にとっては、命がけで求めるものとの出会いですから、患者用図書館は間違ってもボランティアだけで運営されるようなことがないようにしなければなりません。一般の公立図書館においては、医学や医療情報に専門的に詳しい司書との出会いは困難なものがあります。それだけに病院自身が情報提供という領域に踏み込んでいくことが、これからの大事な病院機能評価の一つになってゆくに違いありません。

Ⅳ. おわりに

以上市民グループとしての「よくする会」の活動の一つとして、患者に向けた病院図書館の設置への運動の経過と、その活動について述べさせていただきました。図書館設置の主体者は、行政であり、あるいは民間の企業ですが、とにかく主たる事業を補完するサービス業務であると位置付けされる面が強く、予算的に優先度が低く考えられがちです。しかし、健康で健全な社会を支える市民を育てていくことは、国家大計の目標です。市民自ら

の手で課題に向かい必要な知識を得、その解決に真正面から挑戦する気風に満ちた街や病

院を作ることは、優先すべき目標の一つあることを改めて訴えたいと思います。



静岡県図書館づくり交流会



例会風景